

別紙 1 機能要件一覧

機能要件	
(1)	パッケージ
1	原則として機能のカスタマイズを行わず、本市の環境に導入できること。
2	インターネット接続をすることなく、アクティベーションが可能で、利用できる機能に制限がないこと。
3	ユーザーインターフェースやマニュアルは、日本語で提供されること。
4	windows10pro、windows11proに対応していること。
(2)	ライセンス
1	不具合対応等のパッチは無償で提供し、更新を行うこと。
2	追加費用が発生することなく、最新バージョンへの更新を行うこと。
3	フローティングライセンス形態のRPAソフトウェアで庁舎内のPCへのインストール数に制限のないこと。
4	LGWAN接続系の端末は開発及びロボット実行を同時に 4 台、マイナンバー利用事務系の端末は開発及びロボット実行を同時に 6 台まで運用ができること。また、将来的に同時開発・実行数を増やすことができること。
5	同時開発及び実行可能数が最大に達している場合は、新たにログインができなくなること。
(3)	ロボット作成機能
1	基本的なICTリテラシー（※）を持った職員が、研修を受けることでロボットの作成が可能となるような、理解、習得、及び利用が容易なツールであること。 (※)Officeソフトでの集計表作成、文書作成、及びWebブラウザを利用しての情報取得等の基本的なPC操作ができる程度を想定すること。
2	ロボット作成は、コーディングの知識を要せず、GUIでの操作ができること。
3	ロボットの作成時に条件分岐や繰り返しの処理に対応していること
4	Web画面やOffice製品等（特に利用率の高いExcelやWord）の各種ツール、CSV 等のテキストファイル、業務システム全般のロボット作成・連携ができること。
5	操作方法は、原則として、オブジェクト認識方式であること。なお、座標方式、画像処理方式（画像認識・文字認識）でも操作できること。
6	ロボットの可読性・保守性を向上させるため、各プロセスの命名やコメントの追加、変数の命名の機能を備えること。
7	新たにロボットを作成する途中で他業務で作成したロボットなどを参照し、全部および一部をコピーしてロボットを作成できること。
8	ロボット実行時のエラーについて、エラーを起こしたプロセス名の取得やログの書き出し等、エラーの内容を容易に解析できること。
(4)	アクセス権 設定・管理
1	利用者のユーザ認証・管理ができること。
2	ユーザ認証用のパスワードについては、以下を満たすこと。 <ul style="list-style-type: none"><li>・利用できる文字種は、原則としてWindowsに準拠すること。</li><li>・パスワード入力時は「*」等の文字で置き換えて表示され、第三者に盗視されることのないような仕組みが施されていること。</li><li>・パスワードは、暗号化されて保存されること。</li><li>・管理者は、任意のユーザのパスワードを変更できること。</li></ul>
3	サーバ上でロボット及び権限など管理できる機能があること。
(5)	稼働情報・ログ管理
1	ロボットから任意に必要な情報をログに出力できること。